２．発達段階に応じたキャリア教育の充実

取　組　の　柱　・　取　組　の　方　向		頁
（1）	キャリア教育の推進	102
■	キャリア教育の推進体制づくり	102
■	職場体験活動・インターンシップ等の推進	104
■	多様なニーズに対応した就業支援の充実	109
（2）	産業教育の充実	111
■	高等学校における産業教育の充実	111
■	高等学校・高等技術専門校・企業の連携強化	112
■	人材育成機能の強化	113
■	技術・技能を尊重する機運の醸成	113
（3）	世界を舞台に活躍できる人づくり	115
■	外国語教育・国際理解教育の充実	115
■	表現力の育成	117
■	世界で活躍できる知性や技術・技能の育成	118
	効果指標の達成状況	119

(1) キャリア教育の推進

キャリア教育を計画的・組織的に推進するため、キャリア教育会議において、発達段階に応じた系統的なキャリア教育について検討するとともに、小・中・高等学校、特別支援学校の子どもたちが、発達段階に応じて自分自身の成長を確かめ、自らの将来について考えるための「キャリア教育ノート」を作成し活用できるようにした。

また、インターンシップ等の受入れや社会人講師の派遣に協力する事業所などを「あいち夢はぐくみサポーター」として登録し、各学校での活用を働きかけるなど、キャリア教育の推進体制づくりに取り組んだ。

こうした関係機関の協力のもとで、小学校高学年を対象としたモノづくり体験や、全公立中学校における職場体験活動「あいち・出会いと体験の道場」、普通科を含む全日制県立高等学校全校におけるインターンシップ、特別支援学校における就労準備体験や長期間の現場実習などを実施することにより、キャリア教育の一層の充実に取り組んだ。

■　キャリア教育の推進体制づくり

〈主な取組・成果〉

◇　キャリア教育会議の開催

体験活動を通じて小･中学校から高等学校や特別支援学校の各発達段階での社会性の涵養、自己有用感や勤労観・職業観の育成、主体的な進路選択ができる能力等を育成するため、キャリア教育を体系的･継続的につなげていく観点から、有識者や産業団体、保護者代表等からなる「愛知県キャリア教育会議」を設置し、年２回の会議を開催した。

委員：14 人（有識者及び経済団体等の関係者、教育関係者及び保護者代表、関係諸機関）

日時：平成 23 年４月 26 日（第１回）、平成 24 年３月 22 日（第２回）

会議では、小・中学校、高等学校、特別支援学校の各部会でキャリア教育ノート作成委員会を組織し、キャリア教育ノートを作成すること、あいち夢はぐくみサポーター制度の運用詳細を検討し､ホームページを開設してサポーターを募集するとともに、認定証を発行することなどについて協議した。

◇　「キャリア教育ノート」の作成

小・中・高等学校及び特別支援学校において、児童生徒の発達段階に応じた社会的・職業的自立の基盤となる能力・態度を育成する一助とするため、節目ごとに児童生徒が振り返り、自分自身の成長を知り、自己理解を深めることのできる「キャリア教育ノート」を作成し、各学校に配付するとともに教育委員会のホームページに掲載した。

主な特徴：

・　小学校（小学部）から高等学校（高等部）までの 12 年間でノートを累積して活用できる。

・　小学校（小学部）入学から高等学校（高等部）卒業までの 12 年間を航海に、児童生徒たちを船員にたとえ、名前を「夢を見つけ 夢をかなえる航海ノート」とした。
　愛知県のキャリア教育マスコットキャラクター「キャプテン･アイリス」がノート記入のガイドをしている。

・　各種ノートの電子データは、ワード形式で作成してあり、教師が学校の実情や児童生徒たちの実態に応じて内容を変更できる。

「夢を見つけ 夢をかなえる航海ノート」

県が主催するキャリア教育会議では、「運動会や学芸会など学校現場で日頃実施している実態に即したノートになっている。」「小中高 12 年間の系統性が示されている。12 年間を並べることにより、その中での小学校の役割が適切に示されている。」「教員がキャリア教育に取り掛かりやすい構成になっている。」「キャリア教育だけに留まらず生徒指導等様々な面での波及効果も期待できる。」という意見をいただいている。

◇　人材育成コーディネート推進事業

キャリア教育を推進するため、ＮＰＯ法人に委託して、企業と学校現場との橋渡し役となる教育コーディネーターを雇用・育成するとともに、活用した事業を実施した。

教育コーディネーターの活用により、高等学校に派遣される社会人講師の幅が広がり、キャリア教育の推進に効果があった。また、モノづくり教室への参加を通して、多くの子どもたちがモノづくりの楽しさを体感し、子どもたちの職業選択における「モノづくり産業」の存在感を高めることができた。

・教育コーディネーター等の雇用・育成　11 人
・高等学校への社会人講師派遣　82 校　延 1,495 人
・高校生を対象にした広域インターンシップの実施　20 事業所
　72 人参加
・小中学生に対するモノづくり教室の開催　10か所　30講座

◇　「あいち夢はぐくみサポーター」の活用

平成 23 年度 7 月に県内の公立の小・中・高等学校、特別支援学校におけるキャリア教育を推進するため、児童生徒の教育活動を支援する県内の事業所や団体を認証･登録するとともに、事業所等の社会貢献活動を広報する「あいち夢はぐくみサポーター制度」を設置した。

サポーター制度の設置時期が年度途中であったため、サポーターの登録数は 23 件に留まっているが、中学校の職場体験の受入れ事業所が新たに高等

学校のインターンシップについても受け入れを表明するなど、サポーター制度の可能性について確認することができた。

◇　男女共同参画の推進

「子どもにとっての男女共同参画」をテーマに、イラストと文字による「はがき１枚からの男女共同参画」の作品募集を実施し、入選作品を愛知県の男女共同参画月間である 10 月に展示したほか、男女共同参画社会について考える講演会やパネル展示等のイベントを愛知県女性総合センター（ウィルあいち）、県内市町村で開催した。

また、男女共同参画社会づくりの必要性や、固定的な性別役割分担意識の解消などについて、わかりやすく解説した啓発リーフレット「ともに支えともに輝く男女共同参画社会～意識が変われば未来が変わる～」をホームページに掲載するとともに、ＤＶＤ「これからの男の生き方！イクメン・カジダン・共同メン」の制作など男女共同参画に対する理解を促進するための普及啓発を行った。

〈今後の課題・方向性〉

キャリア教育ノートの学校での活用促進を図るとともに、活用に当たっては、学校独自の資料等を加えて、ファイルなどで累積保存をし、小学校（小学部）から中学校（中学部）または高等学校（高等部）まで、継続して使用されるよう働きかけていくことで、発達段階に応じた系統的、継続的なキャリア教育を推進していく。また、使用していく中で、各学校からの意見を集約し、改善を図っていく。

「あいち夢はぐくみサポーター」については、地域のキャリア教育推進のまとめ役を担っている就職支援事務嘱託員やインターンシップ実施校等が、各事業所に積極的にサポーターの登録依頼を実施することにより、登録数の拡大を図っていく。

また、キャリア教育を一層推進するため、キャリア教育コーディネーターの活用による高等学校への社会人講師派遣などを、ＮＰＯ法人の自主事業として継続する方策を検討していくとともに、今後、企業がキャリア教育に参画する際の児童生徒との接し方や、キャリア教育への参画を社員教育などに生かしていく手法などを示した「産業界のキャリア教育参画プラン（仮称）」の作成・普及に取り組んでいく。

■　職場体験活動・インターンシップ等の推進

〈主な取組・成果〉

◇　「夢をはぐくむ　あいち・モノづくり体験」事業

子どもたちがモノづくりを直接体験するとともに、モノづくりの達人から「仕事に対する心構え、努力していること、小学校で学んでほしいこと」などの話を聞き、働くことや学ぶことへの基盤をつくることを目的として、小学校５年生又は６年生の児童を対象とした「夢をはぐくむ　あいち・モノづくり体験」事業を推進した。

県内の 53 校（名古屋市を除く市町村各１校）が事業に参加し、各地の伝統産業（筆作り、陶器作り、鬼瓦作り、しめ縄作り等）にかかわることを中心に、熟練技能士等の「技」と「思い」にふれる機会をもった。

特色ある体験として、先進的な産業技術の基礎を学ぶロボット作りに挑戦する学校もあった。

実践事例：

・事例１「茶碗作りの達人から学ぼう（地域の陶芸家から学ぶ）」

講師の、厳しかった修行時代の話から、子どもたちは「一つの夢にたどりつくには、たくさんの努力が必要だ」、「さすが達人だ」という思いをもち、モノづくりの楽しさやおもしろさ、達人の技のすごさやすばらしさを感じることができた。

「茶碗作りの達人から学ぼう（地域の陶芸家から学ぶ）」

・事例２「鬼瓦作りの達人から学ぼう（地元伝統産業にふれて）」

粘土が割れないようゆっくり形を整えたり、模様や絵を描いたりする体験を通して、子どもたちは「きれいな作品は作れなかったけど、鬼瓦に興味がわいてきた」などの思いをもった。市の特産物に対する意識を高めるとともに、伝統産業への理解を深めることができた。

◇　「あいち・出会いと体験の道場」推進事業

大人へと心身ともに大きく成長する中学生の時期に、社会の成り立ちについての理解や働くことの意義、責任感、あいさつ、言葉づかいの大切さなど、社会性をしっかりと身に付けてもらうため、学校と地域が連携して中学生の５日間程度の職場体験等を推進した。

県は、受入協力事業所への「あいち夢はぐくみサポーター」認定証の作成・配付と、活動実施に要する学校経費の支援を行なった。

平成 23 年度は、前年度に引き続き公立中学校全校（名古屋市を除く。）が参加した。

参加中学校：県内全公立中学校 304 校（名古屋市を除く。）
参加生徒数：約 50,000 人

飲食店や小売店、保育所、病院、福祉施設、工場、農家など実社会の様々な現場で職場体験を行った中学生の多くが、「辛い仕事を続けていても、あいさつやお客様への気配りを忘れない店員の姿に感動した。働くことの大変さやルールなどがわかって、すごくよい体験だと思った。将来、何になるかまだしっかりと考えていなかったので、考えるよい機会になった。」（勤労観・職業観や将来に対する意識）、「行く前は、すごく心配だったけれど、事業所の方が丁寧に教えてくれ、うまくできるようになった。分からないことは、誰にでもちゃんと聞けるようになった。」（人間関係の深まり）等、有益であったとの意見が多数あった。

事業所からは、「あいさつ、返事、わからないことは確認をし、質問もあった。前向きな姿勢がスタッフに好感度を与えていた。」といった声があった。

また、「地元の事業所の方々の温かい人柄や仕事に対する真剣さに触れ、生徒たちは地域の良さや働くことの良さを知ることができた。」（学校と地域との連携促進）や、「３日間、とても疲れて帰ってきたが、体験の様子を話すときの表情がとても良く、貴重な経験をさせてもらえたと感じた。」（親子のコミュニケーションの促進）などの波及効果もみられた。

職場体験（自動車修理工場）

◇　県立高校におけるインターンシップ等の推進

より多くの県立高校生が勤労観・職業観や主体的な進路選択のできる能力・態度を身に付け、学校生活から職業生活への移行が円滑に行われるようキャリア教育に取り組んだ。

・キャリア教育地域推進会議の開催（年２回）
　・各高校におけるインターンシップ等の取組を検証
　・研究指定校によるインターンシップの実践事例発表や講演などの実施
　・インターンシップ等の取組についてまとめた報告書の作成

・インターンシップの拡充
　・実施校数：全日制県立高等学校 146 校（参加生徒数：9,483 人）
　・主な受入れ先：官公庁、百貨店、保育施設、病院、介護施設、農家、機械・電気メーカー等

・キャリア教育推進フォーラムの開催
　実施日：平成 23 年６月 14 日
　場所：県総合教育センター
　参加者:全県立学校の教員
　内容：有識者による講演、義務教育段階でのキャリア教育の事例報告のほか、キャリア教育支援セミナー等を実施

普通科を含む全日制県立高等学校全校においてインターンシップ等の取組を実施し、多くの生徒が働くことの喜びや厳しさを実感し、社会人として必要な協調性、マナー、コミュニケーション能力などを習得するなど、高い教育的効果をあげた。

参加した生徒からは、「信頼関係を築くためのコミュニケーションの大切さを痛感した。」「色々な話を聞き、視野が広がった。」「体験を通して将来の目標が明確になった。」といった声が聞かれた。

また、全ての県立高校から教員が参加するキャリア教育推進フォーラムでは、義務教育段階でのキャリア教育の実態や能力向上のためのセミナーの開催により、キャリア教育の理解が一層図られた。

◇　あいち理数教育推進事業（再掲）

高校生が大学の学びに触れることを通して、自らの視野を広げ、生涯を見通したキャリアプラニングについて考える機会を提供した。（３（3）に記載）

・あいち科学技術教育推進協議会：
　各高等学校で行われている高大連携等による科学技術教育の優れた取組について情報交換と研究協議を行い、取組成果について発表会を開催した。

・知の探究講座：
　大学との連携の中で、高等学校では学べない先進的な理数教育を受ける機会を提供した。

◇　大学との連携推進に向けた意見交換会の開催（再掲）

高校と大学の円滑な連携という視点から、高校と大学とが情報交換並びに諸課題についての研究協議や連絡調整を行うために、高大連携連絡会議を開催した。

農業部会、工業部会、商業部会、普通科（外国語）部会において、大学と高校が協議を深めることを通じて、高大連携の現状と大学、高校相互の課題について理解を深めることができた。（３(2)に記載）

◇　「大学と県教育委員会との連携推進会議」の設置及び「あいちの学校連携ネット」の運用による大学との連携強化（再掲）

愛知県内にある 49 の４年制大学と県教育委員会が連携することにより、高校生に大学の教育に触れる機会を提供したり、大学生が小・中学校の学校現場で子どもたちの学びを支援したりするなどの取組を推進するため、平成 23 年４月に「大学と県教育委員会との連携推進会議」を立ち上げ、県内全ての４年制大学や私立高校関係者と県教育委員会がそれぞれの人材や資源を相互に生かしていくための具体策を協議した。

その成果として、平成 24 年３月から、マッチングサイト「あいちの学校連携ネット」を開設した。サイトでは、大学が行う高校生向け講座情報や、専門学科・総合学科の生徒向けの情報など、県内全ての 49 大学と、高等学校・特別支援学校等をつなげる情報を掲載して、連携した取組の実施につなげた。（５(7)に記載）

◇　公共職業安定所との連携による職業教育の充実

高等学校を卒業後、就職する生徒も多いことから、愛知労働局（公共職業安定所）との連携の下、働く人の権利について生徒や教員の意識啓発に取り組んだ。

また、愛知労働局、県産業労働部、教育委員会合同により、教員研修会を開催した。

・高等学校就職担当者研修会（年１回）
　就職支援対策等の取組について
　就職希望者に対する進路指導等について

◇　特別支援学校におけるキャリア教育の推進

特別支援学校中学部において、就労の準備体験として地域の職場の見学や簡単な作業などの体験(チャレンジ体験推進事業(ぷれジョブ))を行った。

また、高等部においては、企業や事業所等との連携協力による長期間の現場実習や県立学校における就業体験(就労支援推進事業)を行った。

・チャレンジ体験推進事業（ぷれジョブ）の実施

中学部の生徒が、地域の商店や工場、チェーンストア等、いろいろな仕事や作業等の体験や見学をとおして、働くことへの意識が向上した。

実施校：21校
実施人数：200人（中学部生徒）
主な実施場所：ショッピングセンター、コンビニエンスストア、ホテル、工場、書店、市役所、図書館保育園、消防署、農家、社会福祉施設等

体験した生徒からは、「見学を通して、作業所を将来の進路の一つとして具体的に知ることができた。」「就労体験を通して、社会に出て働くことの大変さや、やりがいを実感した。」「この体験をとおして、働くことの厳しさを肌で感じることができたとともに、自己の将来を自分で考えるよい機会となった。」などの感想があった。

・就労支援推進事業（長期間現場実習）の実施

高等部の生徒が、企業や事業所等との連携協力による長期間の就労体験を実施し、生徒の職業観を高めることができた。

実施校：24校
実施人数：228人（高等部生徒）

体験した生徒からは「１日８時間の立ち作業を経験することで、体力やコミュニケーション力不足など自分の課題を把握できた。」「長期間の実習を体験したことで、働くことについてより身近に考えることができた。」などの感想があった。長期間の現場実習を受け入れていただける企業を開拓することもでき、今後の産業現場等における実習及び３年生の就職活動に向けて有益であった。

・就労支援推進事業（県立学校職場実習）の実施

高等部の生徒が、県立高等学校及び特別支援学校における就業体験（インターンシップ）を実施し、生徒の就労観・勤労観を高めることができた。

実施校：19校
実施人数：246人（高等部生徒）

体験を実施した学校からは「丁寧な作業ができ、あいさつや報告もできた。」「落ち着いて指示されたことを理解し、集中して作業に取り組めた。」「礼儀正しさや前向きな態度が良かった。協調性もある。」などの感想があり、体験した生徒からは「自校ではできない活動を体験することで、作業の能率や手順、人との関わり方等を学んだ。」「就業体験中の体調管理も

自分自身で気をつけることができ、欠席をすることなく参加することができた。」などの感想があった。

◇　大学におけるキャリア教育の支援

第１期中期計画（平成 19～24 年度）に掲げる目標を達成し、質の高い教育・研究を推進するため、就職支援に取り組んだ。

・就職支援システム（求人ＮＡＶＩ）の導入（２大学）
・キャリア支援室における相談コーナー設置、事務職員常駐、ホームページ開設（県立大学）
・教育科目「キャリア実践」、キャリアアップセミナーの開講（県立大学）
・ジョブサポーターによる就職相談の実施（芸術大学）

〈今後の課題・方向性〉

小学校での「ものづくり体験」、中学校での「職場体験活動」、高等学校での「インターンシップ」を、小・中学校から高等学校、また特別支援学校を含めて、発達段階に応じた継続的・体系的なキャリア教育における体験活動として位置づけ、引き続き実施するとともに、「キャリア教育ノート」等を活用して事前・事後指導の充実を図ることで、その教育的効果を高めていく。

小学校においては、体験を一過性のものとせず、モノづくりを核とした教育課程により、児童の社会的･職業的自立に必要な能力や態度を育てられるよう、市町村におけるキャリア教育の一層の充実を図る必要があるが、講師の選定に苦慮した市町村もあったことから、今後も、「本物」にふれるための情報提供、情報交換の場を確保する必要がある。

高等学校においては、全ての学校でそれぞれの実情を踏まえた系統的かつ計画的なキャリア教育の充実を図っていく必要があるが、中でも普通科についてインターンシップ等の取組が遅れていることから、積極的に取り組んでいく必要がある。職場に慣れ責任を持って仕事を任されるようになるには、一定の日数が必要であるが、昨今の厳しい経済状況などの影響を受け、実施期間の拡大は進んでいないことから、今後も地域や産業界等の人々の協力を得ながら、就業体験の機会を積極的に設ける必要がある。

なお、特別支援学校においては、小学部においても、今後、学校近隣の商店、工場の見学など校外学習を通じてキャリア教育の推進を図っていく。

また、中小企業においては、インターンシップの取組が進んでいないことから、平成 24 年度に大学生１日職場体験モデル事業を実施し、大学生を中小企業へインターンシップに派遣する取組を推進していく。

■　多様なニーズに対応した就業支援の充実

〈主な取組・成果〉

◇　若年者等の就職の促進

学校、市町村等との連携により、支援の必要な若年者等に対して、就労等に関する相談窓口の設置、離職者向けの職業訓練等を行った。

・あいち若者職業支援センター

概ね 40 歳未満の若者を対象に就職に関する情報提供から職業紹介までのサービスをワンストップで提供する「ヤング・ジョブ・あいち」において、あいち若者職業支援センターを運営し、若年者及びその家族を対象とした就職に関する相談、就職力を向上させるためのセミナー等を実施した。

・若年者就職相談窓口

県内の 13 市１町と共同で若年者就職相談窓口を開設し、県が委嘱したアドバイザーが就職に関する様々な相談に対応した。

・離転職者訓練

離職者等を対象に、その再就職を支援するため知識・技能を習得させる職業訓練（４か月～１年）を実施した。

・雇用セーフティネット対策訓練

離職者等を対象に、その再就職等を支援するため、民間の専門学校等に委託して、介護・福祉、情報通信等多様な分野の職業訓練（３か月～２年）を実施した。

〈今後の課題・方向性〉

若年者等の就職を促進するため、学校、市町等との連携・協力を強化するとともに、より多くの対象者の就職支援に繋がるよう、相談窓口や短期課程訓練を幅広く周知していく必要がある。

また、特に若年者に対しては、職業に対する目的意識やコミュニケーション能力などが企業の雇用ニーズに達していない方も多いことから、キャリア教育等により、早期に就職力を高めることが必要である。

(2)　産業教育の充実

高等学校における産業教育の充実を図るため、本県工業教育の中核となる総合技術高等学校の新設に向けて準備を進めるなど、高等学校における産業教育の充実に取り組んだ。

また、専門高校生を地域の企業等に派遣して現場実習するなど、高等学校と企業との連携強化に取り組むとともに、モノづくり関連分野や中小企業の人材育成を支援した。

このほか、専門高校の魅力を広く県民に伝えるため、産業教育の祭典「あいちさんフェスタ 2011」を開催したり、平成 26 年に本県で開催予定の「技能五輪全国大会・全国障害者技能競技大会(全国アビリンピック)」に向け、職人の仕事内容や魅力、職人の技についてＰＲ活動を行うなど、技術・技能を尊重する機運の醸成に取り組んだ。

■　高等学校における産業教育の充実

〈主な取組・成果〉

◇　総合技術高等学校の設置

質・量ともに日本一のものづくり技能者を有する本県の産業を、さらに発展させていくため、本県の工業教育の中核となる高等学校の設置に向け、準備を進めた。

・実施設計
　校舎、実習棟などの工事図面の作成

将来のスペシャリストの育成を目指し、豊富な実習や、大学・産業界と連携した専門的な学習により、実践的なものづくり教育を実施するとともに、専攻科を設置して、専門的な教育を継続して行い、卒業後、即戦力として活躍でき、より高度な技術・技能を身に付けて、生産現場の牽引役となる人材の育成を目指すといった構想を基本設計に反映することができた。

◇　産業教育設備の整備

産業教育振興法に基づき、県立高等学校専門学科等における産業教育のための実験実習用設備について、各学校の実情に応じた重点的な整備を行った。

・新規設備：愛知工業高等学校始め 18 校
・設備更新等：瑞陵高等学校始め 33 校

◇　職業教育技術認定制度

職業資格の取得を通じて、技術・技能に習熟すること、目的意識をもって充実した学校生活を送ること、将来にわたって豊かな職業生活を営むことを目的として、技術認定制度を設け、県内の高校生及び特別支援学校の高等部に在学する生徒を対象として、一定条件以上の資格等を取得した場合に、知事から顕彰するとともに、県独自で実施する検定試験に合格した場合に、知

事から合格証書を授与した。

・平成 23 年度顕彰者：8,165 人、検定合格者 4,116 人

◇　「地域振興」「観光」などの教育課程の検討

産業構造の多様化に対応するため、県立高等学校において、地域振興や観光をテーマとした教育課程を検討する。

〈今後の課題・方向性〉

総合技術高等学校について、実施設計に基づき、平成 27 年度の開校に向けた準備を着実に実現するとともに、産業界の意見等を伺いながら、本県工業教育の中核となる本校の教育課程、設備等を検証していく。

また、技術・技能を生徒に習熟させるため、引き続き職業教育技術認定制度を推進していく。

■　高等学校・高等技術専門校・企業の連携強化

〈主な取組・成果〉

◇　地域ものづくりスキルアップ事業

「知と技の探究教育推進事業（H16～H21）」及び「愛知版クラフトマン 21 推進事業（H19～H21）」で培ったシステムを生かし、「知と技の探究教育推進事業」を継承するとともに、工業高校の教育課程に、地域の企業との連携プログラムを組み込むことにより、県内の工業高校 17 校が、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能習得の仕組みを確立し、今後の地域産業界を担う人材の育成を目指した。

17 校 199 人の生徒が 61 社において、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能習得を行い、資格を取得した生徒も見られるなど十分な効果を上げている。また、参加生徒の中には、研修企業の良さを知り、その企業に就職するなどの成果がでている。引率する教員も地元企業の優れた技術・技能に触れる機会となり、学校と企業との連携が強化されている。

◇　モノづくり人材育成

県立高等技術専門校において、県内の工業高校生を対象に企業の熟練指導者又は技能士による実践的な技能実習を行い、技能検定（普通旋盤作業２級又は３級）合格レベルの人材を育成した。（参加生徒４校　33 人）

参加生徒 33 人のうち２級*に 10 人（受験者 12 人）、３級*に 17 人（受験者 21 人）が技能検定に合格した。

＊２級：中級の技能労働者が有すべき技能及びこれに関する知識の程度
＊３級：初級の技能労働者が有すべき技能及びこれに関する知識の程度

〈今後の課題・方向性〉

経済状況の悪化により、受入れ企業の開拓が難しくなっており、今後、より多くの地元企業の参加を促すためには、産・学・官の３者の連携強化が必要である。

■　人材育成機能の強化

〈主な取組・成果〉

◇　高等技術専門校におけるモノづくり人材育成

県立高等技術専門校(6 校)の訓練について、モノづくり関連分野を核とした訓練体系へ移行を進め、技能者等の人材育成を行なった。

・岡崎高等技術専門校において、モノづくり総合科(マルチスキルコース)を開設した。

◇　中小企業人材育成モデルの作成

中小企業における人材育成の状況及び課題についてのアンケート調査や中小企業における人材育成の好事例についてのヒアリング調査を実施し、中小企業人材育成モデル（手引き）を作成した。

中小企業人材育成モデル（手引き）では、以下の６つの人材育成の主なテーマと企業モデルの紹介を行った。

・やる気と生産性向上の組織づくり　〈人材育成はトップの情熱と知恵〉
・若手教育は新人から　〈鉄は熱いうちに打て〉
・次世代を担うリーダーの養成　〈幹部育成は社内と社外の両輪で〉
・成果を上げる営業パーソンの育成　〈意欲を高め、スキルを共有する〉
・技能（匠の技）の伝承　〈経験させて、そして技と感性を磨かせる〉
・競争に勝つ技術者養成　〈技術力と創造性を育てる環境をつくる〉

中小企業人材育成モデル（手引き）を関係機関へ配布するとともに、ホームページへの掲載を図ることにより、中小企業に対して人材育成に役立つツールを提供することができた。

〈今後の課題・方向性〉

高等技術専門校における技能訓練の充実や、中小企業の人材育成機能を強化し、底上げを図るため、中小企業の現状を踏まえて作成した手引きを幅広く普及していく必要がある。

■　技術・技能を尊重する機運の醸成

〈主な取組・成果〉

◇　あいちさんフェスタ 2011 の開催

県内２会場で「あいちさんフェスタ 2011」を開催し、農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉学科や総合学科で産業教育について学ぶ高校生による作品展示、生産物等即売、高校生「匠の技」披露、研究発表会、アトラクションなどを実施した。

刈谷会場：
平成 23 年 10 月 29 日（土）　午前 10 時から午後４時まで
ＪＲ・名鉄刈谷駅南口（刈谷市総合文化センター・みなくる広場）

金山会場：
平成 23 年 11 月５日（土）　午前 10 時から午後４時まで
金山総合駅（明日なる広場・連絡橋イベント広場・アスナルホール）

参加校：職業に関する学科をもつ専門高校　65 校
職業に関する系列をもつ一部の総合学科高校　８校

農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉学科や総合学科で産業教育について学ぶ高校生の活躍を幅広く紹介することを通して、産業教育で学ぶ生徒の自信と誇りを醸成し、将来の産業を担う「スペシャリスト」の育成と産業教育の一層の振興、発展や、県民に対する産業教育の周知を図ることができた。

◇　「職人の技」PR 事業

若者のものづくり離れ、少子化による若年労働者の減少などが懸念されているため、いわゆる「生業(なりわい)系」の職種を中心とした職人の仕事内容や魅力、職人の技などについて、キャラバン隊「あいち技能応援団」による県民へのＰＲ活動を実施した。

ＰＲ職種：左官、造園、タイル張り、鳶(とび)、理容の５職種
ＰＲキャラバン隊の編成：ＰＲ職種ごとに１人の応援団を配置
活動期間：平成 23 年 11 月～平成 24 年３月
活動内容：
・県内主要駅・各種メディア・大型ショッピングセンター等におけるＰＲ活動
・「職人の技」体験教室の開催
・紙芝居、映像、パネルによる「職人の技」の紹介

若年労働者の減少や後継者不足が課題となっている職種について、職人の仕事内容や魅力、職人の技などについて広くＰＲすることで、技能者を目指す人材の裾野を広げるとともに、平成 26 年の「技能五輪全国大会・全国障害者技能競技大会(全国アビリンピック)」の本県での開催に向けた機運を醸成することができた。

〈今後の課題・方向性〉

平成 24 年度の「あいちサンフェスタ 2012」を平成 25 年度に開催する「全国産業教育フェア愛知大会」のプレ大会に位置付け、大会の充実を図っていく。
また、平成 26 年の「技能五輪全国大会・全国障害者技能競技大会(全国アビリンピック)」の本県での開催を広く県民に周知するために、「職人の技」のＰＲ活動を今後も積極的に推進していく。

(3)　世界を舞台に活躍できる人づくり

児童生徒が、外国で実際にコミュニケーションがとれるよう、外国語指導助手などを学校に配置して、これらの活用などによって英語の授業改善に取り組んだ。

また、高等学校に設置されている国際教養科、英語科や普通科の国際理解コース、国際コミュニケーションコースを中心に、異文化や国際理解に関する取組を行うとともに、アジア諸国との交流の拡大を踏まえ、中国語や韓国・朝鮮語なども選択して学習できる機会を広げるなど、外国語教育・国際理解教育を充実した。

このほか、言葉に対する興味・関心を高め、表現力を育成する取組や、大学と連携しながら、世界で活躍できる高い知性や技術・技能を身に付けた人材を育成するための取組を行った。

■　外国語教育・国際理解教育の充実

〈主な取組・成果〉

◇　英語の授業改善

外国語指導助手（ＡＬＴ）を配置するとともに、英語科教員の資質向上を図った。また、英語の学習コンテンツの開発やインターネットを活用した国際交流学習の効果的手法を研究した。

・外国語指導助手等配置 40 人（8 月より民間委託ＡＬＴ40 人）
・在県外国人語学講師配置 15 人
・語学演習装置の活用
・英語科教員地区別研修の実施

小学生等がネイティブスピーカー*から直接英語を聞くことによって、自国と外国の文化や生活習慣の違いに気付くことができ、国際理解を体験的に学ぶ貴重な機会となった。学級担任とＡＬＴがコミュニケーションのモデルを示すことによって、児童の意欲が増し、積極的にＡＬＴに話しかけるといった行動にもつながっている。英語の音声はデジタル音声などで聞くこともできるが、ゆっくりと強調したり、発音の特徴の説明を加えたりする場合にＡＬＴの存在は重要である。

平成 25 年度から実施の高等学校新学習指導要領には、英語の授業において、生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、「授業は英語で行うことを基本とする」ことが明記されていることから、高等学校及び特別支援学校の英語科教員の一人一人がこの趣旨を踏まえた授業改善の在り方や具体的な指導方法等を、授業研修等を通して習得することを目的とした英語科教員地区別研修（県

ALT による授業

内 24 地区）を行い、約 750 人の教員が受講した。

＊ネイティブスピーカー：
幼少期から自然に使っている出身国の言語（母語）を話す人

◇　県立学校における国際交流活動の実施

児童生徒が外国の文化に触れる機会を充実するため、県立高等学校、県立特別支援学校において、海外の姉妹･友好提携校との間で、相互の学校訪問、夏季休業中の人的交流、インターネットを通じた相互交流、作品交流などを行った。

◇　国際理解コースや国際コミュニケーションコース等での取組

国際教養科１校、英語科２校や普通科の国際理解コース設置校４校、国際コミュニケーションコース設置校２校を中心に海外の学校との交流活動や海外語学研修など英語によるコミュニケーションを高め、異文化を理解するためのさまざまな取組を行った。

英語科や総合学科などにおいては、「中国語」や「韓国語」などの科目を開設し、生徒の国際的な視野を広げることができた。

◇　近隣アジア諸国言語教育の推進

アジア諸国との交流の拡大を踏まえ、中国語や韓国・朝鮮語なども選択して学習できる機会を広げた。

・中国語講座開設県立高校（12 校）
　千種、南陽、春日井商業、尾北、岩倉総合、豊田東、刈谷北、
　刈谷東（昼間定時制）、鶴城丘、蒲郡、御津、豊橋商業
・韓国・朝鮮語講座開設県立高校（５校）
　千種、岩倉総合、杏和、知多翔洋、刈谷東（昼間定時制）

中国語や韓国語等を開設している学校においては、アジアの国々の言語・文化に対する興味・関心が高まっており、外務省が平成 19 年度から５か年にわたって行った「21 世紀東アジア青少年大交流計画」等の際にも、アジアの高校生の円滑な受入れにつながった。

・平成 19～23 年度で、県立高校 40 校で 307 人のアジアの高校生を受入。
・平成 19 年度と 23 年度にそれぞれ 43 人の本県高校生を中国に派遣。

◇　ふるさと遺産サポート事業（再掲）

住民や子どもたちが郷土の自然や文化財を未来に守り伝える環境を整えるため、伝統文化出張講座を実施した。（４(2)に記載）

・伝統文化出張講座の開催（保存団体４団体・４小学校で実施）

◇　県立学校アクティブチャレンジ事業（再掲）

スポーツ・文化芸術部門の研究校（高等学校６校）において、部活動を通して健全な心身を育むための取組や、伝統文化・芸術教育を重視する活動に取り組んだ。（３(2)に記載）

◇　ユネスコスクールの加盟促進（再掲）

世界の子どもたちとの交流や、持続発展教育（ＥＳＤ）に関する教材や情報に触れる機会を充実するため、「ユネスコスクール」の加盟促進を図るための働きかけや、加盟申請にかかる助言、申請書提出の経由を行った。

既に加盟している２校に加え、平成 23 年度に、新たに１校が加盟承認されたほか、11 校（名古屋市１校を含む）が日本ユネスコ国内委員会に加盟申請書を提出するなど、加盟に向けた機運を高めることができた。
（４(1)に記載）

◇　英語教育に関する教員研修の充実

大学との連携により、英語教育に関する教員研修を実施した。

・小学校外国語活動講座　１日
・中学校 10 年経験者研修（英語２日）
・高等学校 10 年経験者研修（英語２日）

〈今後の課題・方向性〉

日本語が話せるような質の高いネイティブスピーカーの活用などにより小・中学校において、英語の授業改善を進めていく必要がある。また、平成 23 年度から小学校外国語活動が全面実施となったため、校内で学級担任とＡＬＴとの効果的なティーム・ティーチング*の指導方法や、クラスルームイングリッシュ*の研修を引き続き進めていく必要がある。英語科教員の資質向上については、英語科教員地区別研修を通して、授業改善の方向性を示したところであるが、今後は、この研修をさらに効果的なものとし、各学校が学校全体で具体的な授業づくりに取り組めるようにする必要がある。

このほか、国際教養科、英語科設置校や普通科コース設置校を中心に、今後も需要に応じてコースの設置を図っていくなど、国際交流活動等を視野に入れた国際理解教育を一層充実させていくとともに、英語のみならずアジア諸国の言語・文化を学ぶことのできる環境を維持・拡大させていく必要がある。

＊ティーム・ティーチング：
　１つの学級で複数の教師が協力して行う授業の形式

＊クラスルームイングリッシュ：
　あいさつや指示、質問、依頼、激励など、英語の授業で使われる簡単な英語表現で、授業や外国語活動の雰囲気づくりとしての意味合いが強い。

■　表現力の育成

〈主な取組・成果〉

◇　ことばの学習活性化推進事業（再掲）

外部人材を活用した地域全体の取組として、委嘱を受けた８市町が、大学教授やアナウンサーによる研修会、作家を招いた講演会など、児童生徒に言葉の魅力や楽しさを味わわせ、言葉に対する興味・関心を高める取組を実施した。（３(1)に記載）

〈今後の課題・方向性〉

外部人材と共に学んだ成果を踏まえ、日頃の学校の教育活動や地域の取組に活かし、豊かな言語活動を推進していく必要がある。

■　世界で活躍できる知性や技術・技能の育成

〈主な取組・成果〉

◇　あいち理数教育推進事業（再掲）

各高等学校で進めてきた理数教育に関する優れた取組を全校に普及するとともに、高大連携の充実を図った。（３（3）に記載）

・あいち科学技術教育推進協議会：
　各高等学校で行われている高大連携等による科学技術教育の優れた取組について情報交換と研究協議を行い、取組成果について発表会を開催した。

・知の探究講座：
　大学との連携の中で、高等学校では学べない先進的な理数教育を受ける機会を提供した。

・あいち科学の甲子園
　科学技術振興機構主催の「科学の甲子園全国大会」へ参加する県代表チームを選考した。

◇　総合技術高等学校の設置（再掲）

将来のスペシャリストの育成を目指し、豊富な実習や、大学・産業界と連携した専門的な学習により、実践的なものづくり教育を実施するとともに、専攻科を設置して、専門的な教育を継続して行い、卒業後、即戦力として活躍でき、より高度な技術・技能を身に付けて、生産現場の牽引役となる人材の育成を目指すといった構想を、本県の工業教育の中核となる総合技術高等学校の基本設計に反映することができた。（２(2)に記載）

〈今後の課題・方向性〉

県立のスーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ校）５校を中核とする、あいち科学技術教育推進協議会への参加校の取組をさらに拡大させるとともに、本県における理数教育の発展に努めていく。

また、総合技術高等学校の設置により、モノづくりのスペシャリストを育成していくなど、高い知性や技術・技能を身に付けた人材育成に努めていく。

効果指標の達成状況

◆キャリア教育の年間指導計画を作成している学校の割合（小・中学校）
⇒100%（27 年度）

新規の取組として 24 年度に調査を実施するため、比較する数値がない。

23 年度に行った類似調査では、「キャリア教育を学校経営案に位置づけをするにあたって、キャリア教育の視点で、教育課程を見直しているまたは予定である学校の割合」は、小学校 94.1%、中学校 95.0%であった。

「キャリア教育推進の手引き」（平成 22 年度作成）、「キャリア教育推進ＤＶＤ」（23 年度作成）の活用を図り、各学校でのキャリア教育の年間指導計画の作成を市町村教育委員会を通して働きかけていく。

◆インターンシップ等を実施する県立高等学校の割合　⇒100%（27 年度）

73.2%（全国公立高等学校 71.1%）（21 年度）
⇒100%（23 年度）（全国公立高等学校 79.6%（22 年度））

目標を達成し、全日制県立高等学校全校においてインターンシップ等に取り組むことができた。

しかしながら、学校間の取組に差があることや取組が教育活動に十分生かされていないなど、いくつかの課題が指摘されているため、インターンシップ等受入れ企業等の情報共有や、「あいち夢はぐくみサポーター」制度の活用、ジョブシャドウィング等の取り入れなどにより、インターンシップ等の拡充を図っていく。

◆特別支援学校高等部卒業者の一般就労の就職率　⇒50%（27 年度）

38.4%（全国 23.7%）（21 年度）⇒36.7%（全国 24.3%）（22 年度）

21 年度と比べると、22 年度は 1.7%の減少となった。

就職率を上昇させるためには、産業現場等関係機関との連携の強化が不可欠であり、具体的には産業現場のニーズを把握し、ニーズに応じた実習の在り方、それに伴う教育課程等の改善が必要である。そのため、キャリア教育を推進するための校内体制として、校務分掌や組織の役割を明確にして、キャリア教育を系統的に教育活動全体で進めていく。

◆あいち夢はぐくみサポーターの登録数　⇒前年度に比べて増加する。（毎年度）

23 事業所（23 年度）

新規の取組であり、比較する数値がない。

地域のキャリア教育推進のまとめ役を担っている就職支援事務嘱託員やインターンシップ実施校等が、各事業所に積極的にサポーターの登録依頼を実施することにより、登録数の拡大を図っていく。

◆全国学力・学習状況調査で「勤労観・職業観」に関係する項目に肯定的に答えた児童生徒数の割合（小・中学校）　⇒全ての項目で全国平均を上回る。（毎年度）

23 年度は、東日本大震災の影響により「全国学力・学習状況調査（文部科学省）」が見送りとなったため、比較する数値がない。

なお、調査対象が異なるため単純な比較はできないが、24 年５月に実施した本県独自の「児童生徒への意識・実態調査」（対象：小学５年生、中学２年生）の結果から見ると、平成 22 年度全国調査における本県数値（対象：小学６年生、中学３年生）に対して、「将来の夢や目標をもっていますか。」、「家の手伝いをしていますか。」という質問に肯定的に答えた児童生徒数の割合が、小・中学校ともに増加している。

今後も、児童生徒の勤労観・職業観の醸成のため、さらに小・中学校段階のキャリア教育の推進を図っていく。

	22年度（全国調査）				24年5月（県独自調査）	
	小学校		中学校		小学校	中学校
	本県	全国	本県	全国	本県	本県
将来の夢や目標をもっていますか。	86.3%	86.8%	70.0%	71.7%	↗ 92.5%	↗ 71.4%
家の手伝いをしていますか。	78.9%	80.2%	62.4%	64.8%	↗ 85.6%	↗ 69.8%